

平成28年度薬事工業生産動態統計年報をもとに 配置薬生産額の減少傾向は「集団」から「個」への セルフメディケーションの変化ではないか

発行：日本置き薬協会 事務局

厚生労働省は9月20日、平成28年度薬事工業生産動態統計年報を公表したが、都道府県別の医薬品生産金額では富山県が前年比5.8%減の6218億45百万円となったものの、前年に引き続き全国トップの座を維持した。一方、全国の配置用医薬品生産金額は、前年比8.9%減の172億76百万円に止まり、19年連続の減少となった。

配置用医薬品が前年に引き続き減少したことに対して、(一社)全国配置薬協会では「残念な数字だが、現状として配置の売上は配置薬だけでなく、生活者に貢献する健康食品や生活ケア商品などで構成されている」とし、「生活者ニーズに応えながら今後も配置の進行を図っていく」(清水剛専務理事)としている。(以上「家庭薬新聞」30年9月25日号より抜粋して掲載)

配置用医薬品生産額(年度)	配置従事者数(年)	従事者平均医薬品仕入額(月間)	
平成9年 685億4500万円	27,921人	197,506円	
同16年 442億3000万円	28,921人	127,445円	平成10年「私がマツモトキヨシ です」発行
同17年 379億5100万円	28,057人	112,719円	
同18年 352億4300万円	26,210人	112,053円	
同19年 311億1700万円	24,666人	105,127円	
同20年 288億8900万円	23,589人	102,056円	
同21年 287億8600万円	22,615人	106,072円	
同22年 280億3000万円	20,995人	133,507円	
同23年 256億2400万円	22,061人	96,792円	
同24年 246億8400万円	20,367人	100,996円	
同25年 226億2400万円	19,337人	97,499円	
同26年 204億5900万円	19,655人	86,742円	
同27年 189億6200万円	17,621人	89,675円	
同28年 172億7600万円	15,928人	108,470円	

平成16年からの過去13年間に亘る上記表より、配置用医薬品生産額と配置従事者数を並べると綺麗な相関関係にあることが分かる。それが従事者平均医薬品仕入額である。凡そ月間10万円前後の額となる。この額が得意先で消費され、この額が得意先に補充されていると捉えることが出来る。配置用医薬品の仕入額率が25%とすれば、従事者の配置医薬品の売上額は40万円前となり、現状の配置業者の営業実態に近いものとなる。従事者の損益の均衡を維持するため、配置市場の縮小が配置従事者の削減を促し、その適正化が行われてきたといえる。

では何故、配置市場は縮小傾向を続けるのか。配置が得意先対象として配置箱を設置頂く家庭、企業(事務所、工場)をヒトの集団と捉えれば、「集団のセルフメディケーション」から「個のセルフメディケーション」に時代的社会的認識と消費構造が変わったのではないだろうか。

配置業界では、「個のセルフメディケーション」に対応出来る、配置、対面、訪問のシステムを活かせる医薬品以外のサプリメント、健康志向食品、化粧品等の提供に取り組んでいる。

本件に関するお問合せ先 **日本置き薬協会 事務局**

〒332-0034 埼玉県川口市並木2-30-6 内外救急薬品内
Tel 080-5514-7511(有馬) fax 048-251-9657